

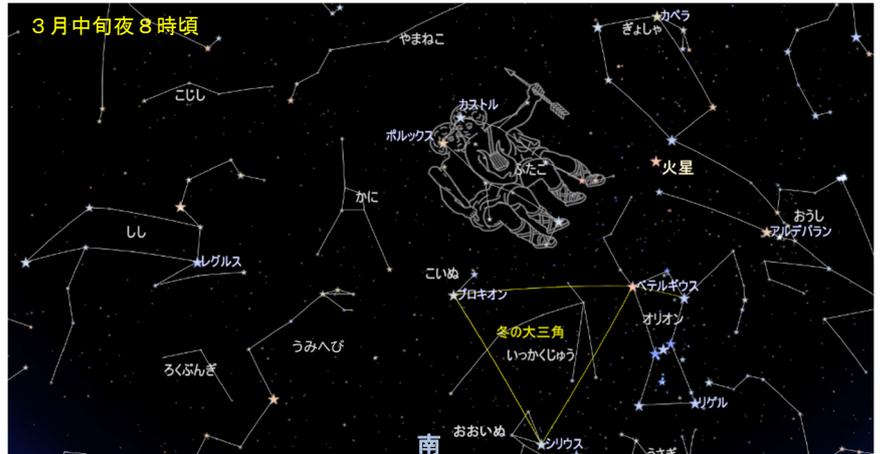
ジオスペース館だより

図はステラナビゲーター11を用いて作成

★ こんげつ ほし 今月の星もよう ★

3月中旬の夜8時頃、冬の星座は西の空に傾き、東の空に春の星座が昇っているのを観察できます。

天頂の「ふたご座」を囲むように、南に「こいぬ座」、「おおいぬ座」、西に「オリオン座」、「おうし座」、北に「ぎょしゃ座」と、主に南から西にかけては、まだ多くの冬の星座を見ることができ、天頂付近の「かに座」



を囲むように、南に「うみへび座」、東に「しし座」、北に「やまねこ座」や「こじし座」と、主に南から東にかけては、春の星座を見ることができ、冬と春の星座で夜空が二分されています。

「ふたご座」を見つけるコツは、まず、冬の**大三角**の1つ「こいぬ座」の1等星**プロキオン**を目印に、その上へ目を向け、「ふたご座」の兄弟星、オレンジ色の**第1星**「**ポルクス**」と白色の**兄弟星**「**カストル**」が仲良く並んでいるのを見つけることです。そこからオリオン座の方向へ2列に並んだ星々が、双子の体の部分です。紀元前1400年頃の古代バビロニアで、カストルとポルクスを「大きな双子」と呼んでいた記録があり、「ふたご座」は、大変古くからある星座です。因みに、三大流星群の1つで、毎年12月14日頃に観測される「ふたご座流星群」は、カストルの近くに放射点があることから、その名前と呼ばれています。

★ ふたつぼし(二つ星)・きんめぎんめ(金目銀目) 【星の和名のお話】

「二つ星」は、「ふたご座」のカストルとポルクスの和名です。ポルクスは1等星ですがオレンジ色でやや暗く感じ、カストルは2等星でも白色でやや明るく感じるため、甲乙付け難い明るさの星が2つ並んで見え、とても目立ちます。そのため「二つ星」と呼ばれる星はたくさんありそうですが、とりわけ「ふたご座」のカストルとポルクスを呼ぶことが多いそうです。また、この他にも各地にさまざまな呼び名が伝わっており、カストルとポルクスを人の目に例えて、2つの星の色の違いから、ポルクスを「金目」、カストルを「銀目」と呼んでいたところや、2つの星を蟹の目に見立てて、「がにのめ」と呼び、船を進める方向を知るための目標にしたところもあります。



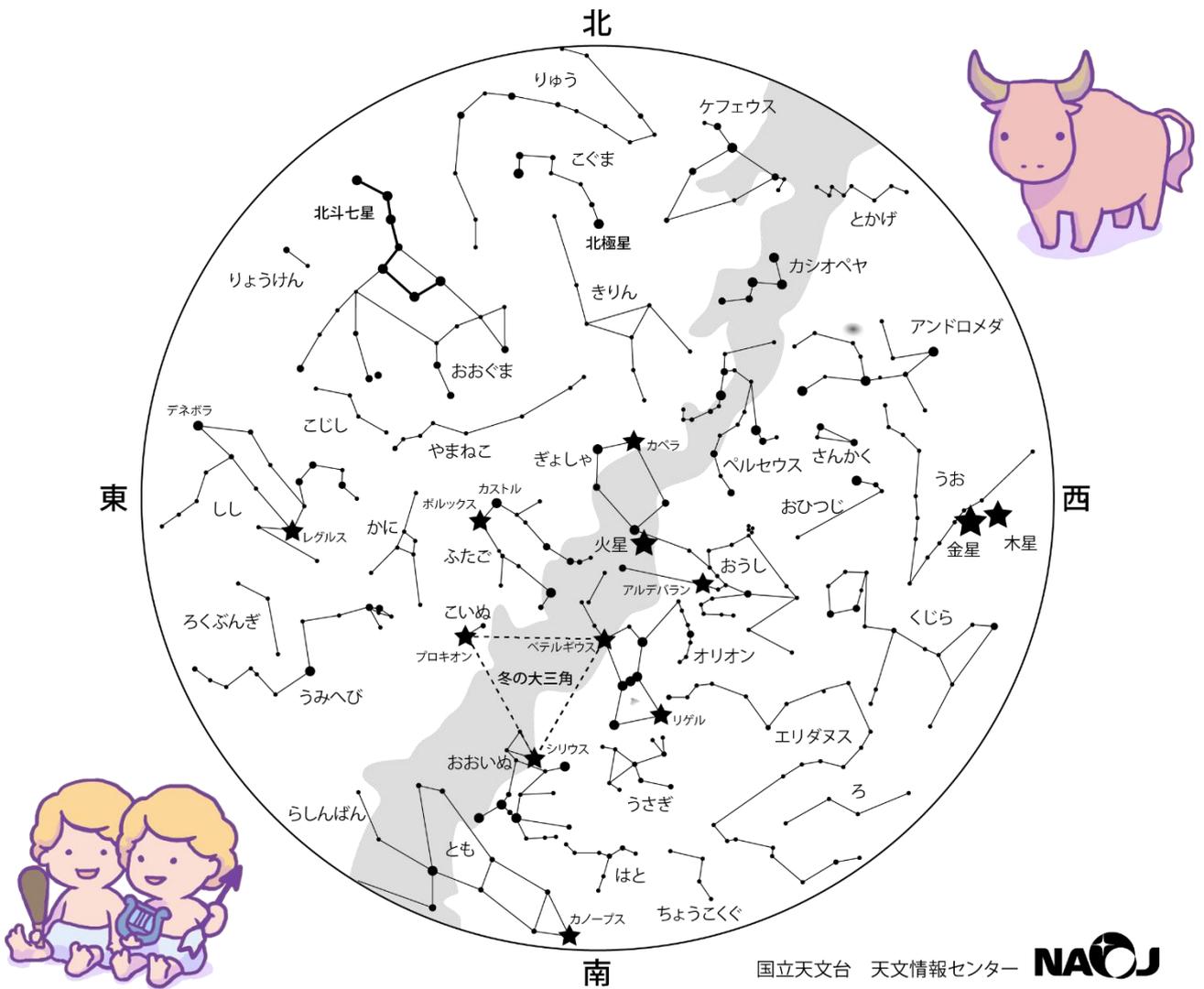
★ 3月2日、木星と金星が大接近！

日の入り後の西の空で、2つの明るい惑星、金星と木星が輝いています。2月から3月にかけて、日々高度を下げる木星と、逆に高度を上げてきた金星が、3月2日の夕方、西の空で大接近します。この時、金星の明るさは約マイナス4等で、日の入りから30分後のまだ明るい空でも一目でわかります。そのすぐ隣に並ぶ木星も約マイナス2等と十分に明るいので、ぴったりと寄り添う金星と木星はとも目を引く光景となるでしょう。時間が進むと2つの惑星は低い空に移っていきませんが、暗くなった空の中でもひととき明るく輝き、とても目立ちます。この機会に、寄り添い輝く金星と木星を、ぜひ観察してみましょう。



★ プラネタリウムは、工事のため1月～3月は休館しています ★

3月上旬午後7時頃の星空



★ 3月上旬の主な天文現象

2日(木)	金星と木星が大接近	12日(日)	てんびん座ι星の食
6日(月)	啓蟄	15日(水)	● 下弦
7日(火)	○ 満月		

★ 国際宇宙ステーション(豊川での主なデータ 3/1~15) ※下記時刻は、予想値です

◇	3月	8日(水)	[見やすさ ◎]	5:18	北北西	~	5:24	東南東
◇	3月	10日(金)	[見やすさ ◎]	5:18	北西	~	5:25	南東
◇	3月	11日(土)	[見やすさ ◎]	4:33	北	~	4:37	東南東
◇	3月	15日(水)	[見やすさ ◎]	19:34	西南西	~	19:37	北北西

豆知識：国際宇宙ステーション (ISS) は、明るい星が動いているように見えます。飛行機のような赤緑ランプの点滅はありません。